

「森里川海アンバサダープロジェクト 2022」

食・農・生物多様性チーム

学生団体連携施策レポート



【イベント概要】※敬称略

森里川海アンバサダー食・農・生物多様性チームのYae、清水弘美、室谷真由美が中心となり、2回のイベントを通して学生たちにオーガニックな学生生活を実現するために必要な取組みについて検討を行うもの。コンセプトとしては、未来を担う高校生～大学生との連携イベントとし、1回目はアンバサダー側より学生に向けたオーガニックに関する情報提供を行なった。2回目は情報提供を受けた学生からオーガニックな学生生活を実現するための施策アイデアを検討・発表してもらい、未来に繋がる取組みを考えた。

第1回目：

■日時

2022年12月18日（日）13:00-17:00

■会場

上智大学 教室

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

■主催

環境省 つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト

■運営

一般社団法人 the Organic

【プログラム】

▷13:00-13:05 オープニングセッション

司会：小田 穂

登壇：Yae

食・農・生物多様性チームリーダーのYaeより学生に向けて森里川海プロジェクトの紹介・本取組みの狙い・説明を行った。

▷13:05-13:40 森里川海トーク

司会：小田 穂

登壇：Yae/清水弘美/室谷真由美/鳥居敏男

今回のテーマである「オーガニック」「有機」等がどのように環境に対して好影響を与えているかに関して、登壇者それぞれの目線で学生に向けた情報提供を行った。

Yae：有機農業生産者・体現者としての目線

室谷：オーガニックな食の消費者としての目線

清水：教育者としての目線

鳥居：農薬を使わない農業が生物多様性を育む事例等の紹介



▷13:50-15:40 映画「いただきます2 オーガニック給食編」上映

農林水産省タイアップ映画「いただきます2 オーガニック給食編」に関する映画を上映。学生たちに向け、各自治体で取り組む「オーガニック給食」に関する事例を提供。



▷15:50-16:20 クロストーク

司会：小田 穂

登壇：Yae/清水弘美/室谷真由美/千葉康伸

有機農業普及に取り組む有機農家千葉氏を交え、上映映画に関する感想共有及び「オーガニック給食」普及に向けた課題や可能性の情報連携を行った。



▷16:20-17:00 アンバサダーと学生によるクロストーク

司会：小田 穂

登壇：Yae/清水弘美/室谷真由美/千葉康伸/学生

参加する学生より、自分たちの学生団体の取組みや想いの共有。またクロストークや映画を見た上での感想を共有した。



【参加者情報】

・参加学生団体

アースデイ東京ユース/上智大学ヴィーガンサークル



第2回目：

■日時

2023年1月22日（日）12:00-15:00

■会場

FOOD HOLIDAY

〒140-0014 東京都品川区大井1丁目2 3-7 アルテール大井町 1F

■主催

環境省 つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト

■運営

一般社団法人 the Organic

【プログラム】

▷12:00-13:30 オープニング・ランチ

司会：小田 穂

登壇：室谷真由美/請井政好（FOOD HOLIDAYシェフ）

イベントの会場となるレストランが提供する無化学肥料無農薬の野菜を使ったヴィーガン料理を体験しながら、シェフが支援する農業団体の取組み等を紹介した。



▷13:30-14:30 学生発表

司会：小田 穂

発表団体：アースデイ東京ユースAチーム/アースデイ東京ユースBチーム/上智大学ヴィ

ーガンサークル

登壇：Yae/清水弘美/室谷真由美/鳥居敏男

学生が自身で「オーガニックな学生生活の実現」に向けた課題設定・解決策の提示を行い、それぞれの目線から発表を行った。またアンバサダーからは、発表内容の実現に向けたアドバイスや情報提供を行った。



▷14:30-15:00 アンバサダーより総評

司会：小田 穂

登壇：Yae/清水弘美/室谷真由美/鳥居敏男

アンバサダーより、学生3チームの発表を受けたコメントをそれぞれ発表。学生が検討をした内容や取組みに対する前向き姿勢に評価を行い、発表内容の実現に向けて激励のコメントを行った。



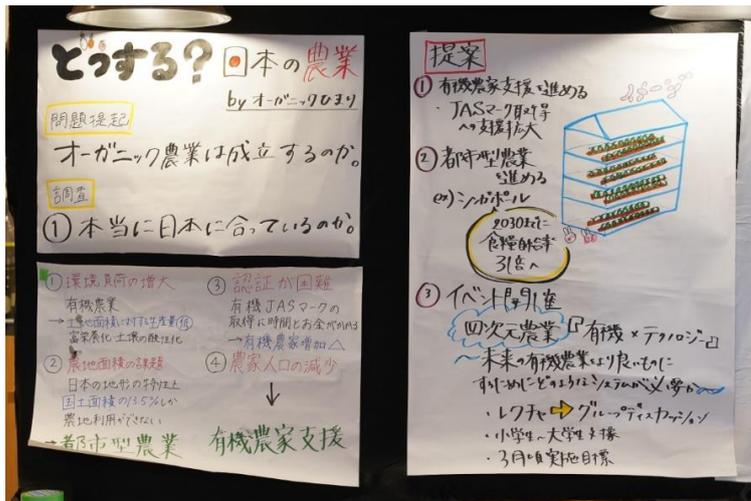
【参加者情報】

・参加学生団体

アースデイ東京ユース/上智大学ヴィーガンサークル

【発表内容】

○アースデイ東京ユースAチーム



学生より発表

オーガニック農業は成立するの?というテーマの元調査をした結果、オーガニック農業普及に向けて以下のような課題があるとわかった。

課題

①有機農業

土地面積に対して生産性が低く、肥料が無くなる事で土壤の酸性化へとつながる

②面積の課題

日本の国土面積の13.5%のみ農地利用が可能

③認証困難

有機JASマークの取得に時間と予算がかかり、有機農家増加の足枷になる

④農家人口の現状

65歳以上及び49歳以下は増加傾向にあるが、農家人口全体では減少

課題に対する問題解決案

①有機農業支援を進め、JASマーク取得に向けた支援拡大を行う

②土地を垂直に増やす事の出来る都市型農業を推進する。シンガポールでは2030年までに

食料自給率を3倍へ行うために都市型農業を活用する事例がある。

③小学生から大学生に向けたオンラインイベントを開催し、有機農業に関する若い世代での意見交換・交流を行う。

アンバサダーからコメント・交流

・農地面積に13.5%にはおそらく中山間地域が含まれていないため、含めるともう少し増えるかと思う。

・有機JAS認証を取るためには予算がかかるが、一方で野菜の売価が上げられる訳ではない。

・都市型農業では、室内だからこそエネルギーを大量に使う事になると思う。

・シンガポールの事例だが、都市型農業は土をビルに置いて実施しているのか？

⇒水耕栽培を活用している様子。

⇒水耕栽培は液肥を活用する事が非常に多く、そうした面も知ることができると良い。

○アースデイ東京ユースBチーム

学生より発表

目指したい社会

人と人が共生し、自然環境が共存できる社会

今回の発表に向け、108件の農家にアンケート調査を行い、以下の結果を出した。

アンケート内容：困っている点が解決したら有機農業移行したいか

移行したい：26.7%

移行したいと思わない：30%

どちらとも言えない：43.3%

困っている点で出てきた内容

費用、労働時間、技術、販路、収量減

有機農家への訪問インタビュー

有機農家A

Q.工夫していることは何ですか？

A.有機栽培は土のバランスを保つことが大変。何年もかかります。

Q.有機農家さんが増えて欲しいと思いますか？

A.どちらとも言えないが、買い手に有機野菜についてしっかり理解してもらい、結果的に増えて欲しい。

有機農家B

Q. 有機栽培で大変なことは何か？

A. 金銭的問題。形の悪い野菜は売りにたくても売れない

上記を通じて、以下の結論を出した。

儲からないと生産者は積極的にならないため、消費者が増えれば、生産者も増える！

結論を通じて、自身達が考えるアクションは以下の通り

アクションの目的

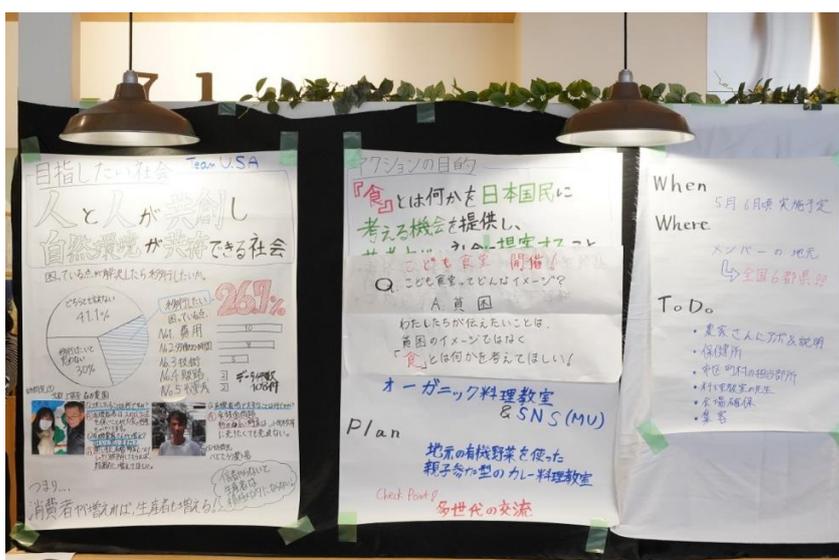
「食」とは何かを日本国民に考える機会を提供し、若者中心に社会に提案すること

アクション

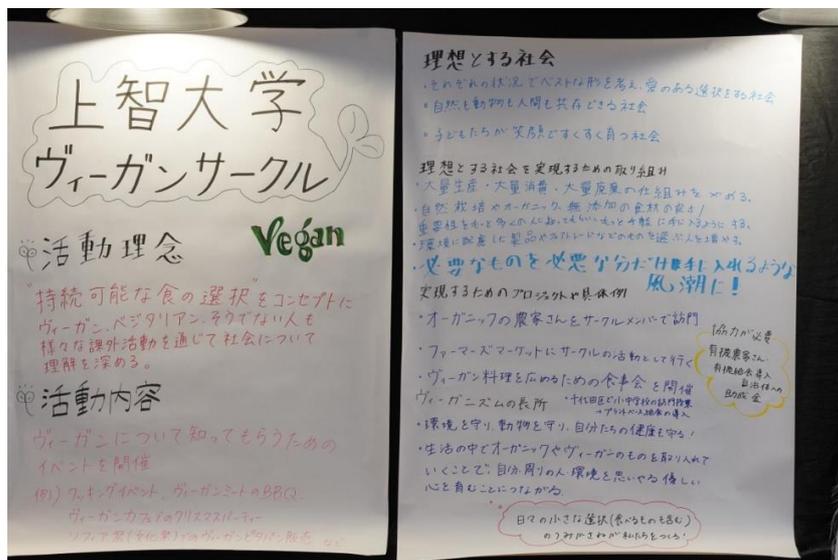
- ・オーガニック野菜を活用し、「食」に関する学びを提供するこども食堂の実施
- ・オーガニック料理教室及びSNS発信
- ・地元の有機野菜を使った参加型のカレー料理教室

アンバサダーからコメント・交流

- ・非常に具体的なアクションで良かった。108件のアンケート調査も素晴らしい
- ・こども食堂は学童等を活用すると入りやすく、親にも届きやすいと思う
- ・有機農家のリアルな声がアンケートできて良かった
- ・有機野菜を食べる人が増えることは有機農家を増やす事につながると思う
- ・農閑期であれば、農家と連携した取組みがしやすい
- ・農業と学生が何らかの形で携わって欲しい



○上智大学ヴィーガンサークル



学生より発表

活動理念

持続可能な職の選択をコンセプトにヴィーガンベジタリアン、そうでない人も様々な課外活動を通じて社会について理解を深める。

活動内容

ヴィーガンについて知ってもらうためのイベントを開催

例：クッキングイベント、ヴィーガンミートのBBQ等

理想とする社会

- ・それぞれの状況でベストな形を考え、愛のある選択をする社会
- ・自然も動物も人間も共存できる社会
- ・子どもたちが笑顔ですくすく育つ社会

理想とする社会を実現するための取り組み

- ・大量生産大量消費大量廃棄の仕組みをやめる
- ・自然栽培やオーガニック、無添加の食材の良さ・重要性をもっと多くの人に知ってもらい、もっと手軽に手に入るようにする
- ・環境に配慮した製品やフェアトレードなどのものを選ぶ人を増やす
- ・必要なものを必要な分だけ手にいれるような風潮にする。

上記を実現するためのプロジェクトや具体例：

- ・オーガニックの農家をサークルメンバーで訪問

- ・ファーマーズマーケットにサークルの活用として行く
- ・ヴィーガン料理を広めるための食事会を開催
- ・千代田区で小中学校の訪問授業をし、プラントベース給食の導入へと繋げる

ヴィーガニズムの長所

- ・環境を守り、動物を守り、自分たちの健康を守る
- ・生活の中でオーガニックやヴィーガンのものを取り入れていくことで、自分、周りの人、環境を思いやる優しい心を育むことにつながる

アンバサダーからコメント・交流

・最も大事な事は、共存をどのようにしていくかだと感じている。プラントベース給食を導入する場合、月に1回まずはプラントベースメニューを入れ、徐々に回数を増やす等を考えながら進めていければと思う

・保育園の教員に向け、「命の大切さ」をヴィーガンという切り口から伝えてほしい、という依頼を受けた。

・台東区では、観光客向けにヴィーガン認証を取るための金銭支援が取り組まれている様子。そういった支援が増えるための活動をしてもらいたいと思う。

・南三陸町では、各家庭の残渣を活用した液肥化プロジェクト等がある。その中で、家庭では分別をより細かく行わなければならないが、一方で液肥を貰え、家庭菜園等で活用できるメリットがある仕組みができている。同様に、オーガニックやヴィーガン等も仕組みができるような形に繋げる事が地域循環共生圏にもなっていくと思う

・学校給食などに導入するために、学校に自身がどのように貢献できる人材になるかが重要だと思う。学校への貢献を通じて学校側が話を聞いてくれる関係性になり、こちらの話も聞いてくれるようになると思う。



全体を通してアンバサダーよりコメント

(鳥居)

今日の発表を発表だけで終わらさず、ぜひ行動まで繋げてもらいたいと思う。

(清水)

自分が教育の現場で、今日発表をしてくれた学生のような子が増えればと思っている。今日の縁を大事にして、活動を続けてもらいたいと思う。

(Yae)

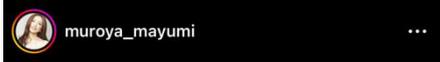
今日発表した学生達から、目を輝かせて発表をしていた。こちらにも元気をもらえて非常に良い場になった。

(室谷)

素晴らしい発表で自身が刺激を受けた。学生の強みに大人の力を借りて行動まで繋げてもらえればと思う。

【事後の情報発信】

- SNS



環境省 森里川海アンバサダー
食チームオーガニック給食イベント

いいね! : rio_i08、他
muroya_mayumi 環境省アンバサダー企画
@morisatokawaumi_
オーガニック給食のある社会づくりとして
イベントを開催させていただきました👍
アースデーユースの皆さんと

以上